

# 本多静六博士の森

所在地・・・埼玉県久喜市菑蒲町三箇地内(菑蒲南部産業団地内)外  
面積・・・約96,000㎡  
実施主体・・・埼玉県農林部森づくり課、ボランティア団体、土地所有者、市町村  
問合せ先・・・【住所】さいたま市浦和区高砂3-15-1  
【TEL】048-830-4312



本多静六博士の森

## 整備の概要

整備実施期間・・・平成20年～平成23年度(2008年～2011年度)

### ①「郷土種・在来種の保全」に向けた整備手法

#### Step1: 森づくりの対象となる対象地の選定

本事業は、元々森林の少ない地域に新たな森を創出するものであり、事業実施箇所として工業団地内をはじめ、公園、河川堤防上など植生の乏しいところを選定した。

また、土地所有者との交渉の後、事業に係わる関係市町村との協議を進め、行政と協働で整備を進めるボランティア団体の選定・説明会の開催を行った。

#### Step2: 植栽樹種の選定・植栽計画の策定

森づくりにあたっては、本土地の郷土種を中心とした森づくりを進めるため、郷土種であるケヤキ、コナラ、クヌギ、エノキ、シラカシ、クスノキ等を中心とした植栽計画を策定した。

#### Step3: 森づくりに係わる関係者間での協定の締結

県民参加型の森づくりを進める方針のもと、整備に係わるボランティア団体、土地所有者、市町村及び県で協定を締結した。また、行政は、必要に応じて、占用許可等の行政手続を行った。

#### Step4: ボランティア団体による植栽・行政の支援

森づくりに向けた郷土種の植栽は、ボランティア団体等により行った。植栽にあたっては、県の職員が技術指導を行ったり、苗木の調達等を行った。

### ② 整備時の協働者との関わり ⇒ボランティア団体、土地所有者である国や地方公共団体等、地元市町村及び県

締結した協定に基づき、「事業用地の提供」「計画策定」「県民意識の醸成」「広報」「連絡調整」「苗木の調達」「植栽」等の役割を協定者が、それぞれの分担に従って行った。

### ③ 整備時の留意点

\* 事業実施に関して地元住民から、「不法投棄が増加しないか」「病害虫の発生しないか」「枯れ葉が飛散しないか」「道路の視界が不良とならないか」「土地への物理的影響はないのか」といった不安の声が寄せられ、想定される事項に対する対応策等について丁寧な説明を行い、不安の解消を図った。

## 事業効果

- この森づくりが森林内に生息する下層の植物、昆虫やミミズなどの土壌動物等も増やすことに繋がり、生物多様性に寄与した。
- また、身近な自然は増えることになり、市民にとって憩いの場となるだけでなく、子供たちにとっても自然学習や環境学習の場となった。



植栽の様子

対象地の概要・・・「彩の国みどりの基金」を活用し、本県出身の郷土の偉人である本多静六博士が明治神宮の森を造成したときの自然の力を活かした森づくりの考え方を取り入れ、森林の少ない地域に県民参加で新たに森を創出したものである。事業対象地は森林が少ない地域で、県、市町村、公益法人等が所有する土地を対象とし、1事業地の面積は概ね3,000㎡以上としている。

## 事業への取組みのきっかけ

本県の特に平地部における森林が、工場用地や住宅地等に転用されるなど都市的土地利用への転換が進む中、県の「彩の国みどりの基金」を活用し、本県出身の郷土の偉人である本多静六博士が明治神宮の森を造成したときの、自然の力を活かした森づくりの考え方を取り入れ、森林の少ない地域に県民参加で新たに森を創出することとした。

## 維持管理

### ④「郷土種・在来種の保全」に向けた維持管理内容

植樹地では、草取りなどの育樹作業を、地域企業や市民の参加により実施している。

### ⑤ 維持管理時の協働者との関わり ⇒ボランティア団体、土地所有者である国又は地方公共団体等、地元市町村及び県

締結した協定に基づき、「広報、学校教育利用、県民等相談窓口」「維持管理(下草刈り、つる切り、清掃等)」「刈草及びごみの処分」「ボランティア団体への技術的支援」「ボランティア団体への助成」等の役割を協定締結者がそれぞれの分担に従って、協力し合い以下の作業を行った。

### ⑥ 維持管理時の留意点

- \* 県民参加による森づくりであるが、森林の状態となるまでには長期間に及ぶ維持管理が必要となるため、できる限り継続的な活動ができるボランティアを探すことが必要だった。
- \* このような単発的な活動ではなく長期的かつ継続的な活動となる場合は、活動日の設定や情報伝達等を考慮すると、個人単位より基本的に団体単位の方が円滑に進むと考え、今まで実施した箇所については基本的に地元自治会やロータリークラブなど既存団体にボランティアでの活動を依頼した。

## 備考

### 現在の課題

ボランティアによる活動の継続が課題である。

また、森林でなかったところに植栽したため、土壌が痩せており、日当たりが良いが乾燥しやすい土地であることが多い。このため、植栽方法を工夫しないと成林しないこともあるため注意が必要である。

### 今後の展望

本事業は森林の少ない地域における森づくりであるため、今後よりPR効果を高め、県民の森林に対する意識の醸成を引き続き図っていききたい。特に、地域住民(特に子供たち)の参加による森づくりを通じて、森林の役割などについて理解を深めてもらえるような活動を行っていききたいと考えている。

### その他

都市部の貴重な森林は、県民にとっても身近な憩いの場となるものである。また、森林は木竹が集団で生育しているだけでなく、その他様々な動植物(下層の植物、昆虫やミミズなどの土壌動物等)の生息空間ともなっている。

そうした身近な森林が失われつつある中、可能な限りその代替として新たな森を創出することが望まれるところである。



ミミズ